

令和7年度 学校評価報告書（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	①ICT を活用した組織的授業改善に取り組み、変化の激しい社会に適応できるよう、生徒の資質・能力を高める。 ②大学進学等の多様な進路希望を実現させる学習指導を充実させる。	①ICT を活用して、主体的に学習に取り組む態度の育成を目指した授業改善を推進する。 ②個に応じた進路希望実現に向けて、計画的かつ組織的に学習指導及び学習支援を行う。	①各教室の電子黒板を効果的に活用して、主体的に学習に取り組む態度の育成をテーマに、公開研究授業や研究協議を行い、職員全体で組織的に授業改善を行う。 ②すべての講座で単元の指導と評価の計画を作成し、年間を見通した計画的な授業実践に取り組む。 ②進路希望の実現に向けて、生徒のニーズに応じた夏期講座や進路指導等の内容の充実を図る。	①ICT を効果的に活用した主体的に学習に取り組む態度の育成に向けた授業改善を推進できたか。（担当者による評価、生徒による授業評価） ①年間を通じた組織的な授業研究に対して、職員の意識が高まったか。（職員アンケート） ②単元の指導と評価の計画をすべての教科・科目で適切に作成し実践することができたか。（担当者による評価） ②多様化する生徒個々の進路実現に向けた取組を推進することができたか。（担当者による評価）
2	生徒指導・ 支援	①組織的な教育相談体制を構築し、生徒一人ひとりに応じた支援を行う。 ②規範意識を高め、校内だけでなく地域社会においても責任ある行動がとれるようにする。 ③学校行事、生徒会活動、地域行事等に対する生徒の主体的な取組を促し、自己肯定感と他者を尊重し協働する態度を養う ④部活動の活性化を通じて、挑戦する気持ちを高め、豊かな人間性や社会性の涵養につなげる。	①職員間の教育相談への意識の高まりの中で定着した「積極的」アプローチ体制を、より効果的な教育相談につなげる。 ②校内や地域におけるルールやマナーを確認し、生徒自身が自己の在り方をしっかりと考え方、自律した行動ができるよう養成する。 ③学校行事、生徒会活動、地域行事等で、生徒が主体的に取組み、協働する態度を育成する。 ④「横浜緑園高等学校の部活動に係る活動方針」に則った部活動を活性化させて、豊かな人間性を育成する。	①個々の職員から、年次間、さらには年次をまたいだ、組織的な教育相談を実施する。 ②生徒・保護者・地域等と連携し、生徒が自ら規範意識を高めることができる取組を実施する。 ③学校行事、生徒会活動、地域行事等で、生徒が個人やグループで参加し、主体的に取り組める機会を増やす。 ④各部活動の活動状況を把握し、部活動の活性化に取り組む。	①サポートドックを中心とした積極的支援を、年次及び職員全体で取り組み、生徒一人ひとりに応じた支援ができたか。（担当者による評価） ②生徒自ら規範意識を高め自律した行動ができるようになったか。（担当者による評価、生徒対象アンケート） ③各行事への取り組みをとおして、主体的に取り組み、協働することができたか。（生徒対象アンケート） ④部活動をとおして、充実感や達成感を持つことができたか。（生徒対象アンケート）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
3	進路指導・支援	①生徒一人ひとりによりよい進路を実現させるため、進路に関する知見を広め、自己の将来を洞察することができるような進路指導を展開する。	①生徒一人ひとりが探究的な学びを通じて、将来の在り方生き方を模索し、進路希望が実現できるような支援を行う。	①スタサブ等の教員研修で教員個々の指導力を向上させて、教員間での情報交換を活発に行うことで、生徒・保護者への情報提供を充実させる。 ②探究活動の計画を実践することで、将来の在り方生き方を考えさせる。	①教員対象の研修会や日頃の情報共有ができる、生徒の進路実現に向けた取組を推進することができたか。(担当者による評価) ②探究的な学びができたか。(生徒対象アンケート)
4	地域等との協働	①地域の教育力や外部の人材を活用した教育活動を推進する。 ②共生社会の実現に向か、インクルーシブ教育をすすめる。	①高大（高専）連携をはじめ、外部講師の支援により、キャリア教育のよりいっそうの充実を図る。 ②三ツ境支援学校分教室生徒との学校行事や部活動において、生徒会等を主体とした交流活動を通じてインクルーシブ教育を推進する。	①大学はじめ外部機関や地域等から講師を招聘し、生徒の興味・関心が広がるような取組を行い、高校卒業後の進路開拓に繋げる。 ②対面式、体育祭、文化祭、部活動等において、生徒主体で交流する機会を増やす。	①生徒のキャリア形成に繋がる取組が十分できたか。(担当者による評価) ②生徒会の生徒が、三ツ境支援学校分教室との交流の機会が増えたことで協働する意識が向上したか。(担当者による評価、生徒対象アンケート)
5	学校管理 学校運営	①学校施設の整備、美化活動の推進等を通じて、優れた教育環境と防災体制を構築する。 ②本校の教育活動を積極的に発信し、学校の魅力をPRする。 ③教職員の働き方を見直し、教職員自身のウェルビーイングを高める。	①美化意識と防災意識を高め、実際の場面で行動できるようにする。 ②学校説明会などの広報活動において、職員だけでなくボランティア生徒と協力し学校全体で学校の魅力をPRする。 ③学校HPをとおして、多くの中学生に本校の魅力を発信する。 ④時間外勤務の削減を実現させ、休暇取得率を向上させることで、ゆとりをもって教員が生徒と向き合う時間を確保する。	①清掃活動と防災訓練の意義を考え、衛生的な教育環境と安心安全な防災体制を構築する。 ②年度当初にすべての年次でボランティア生徒の募集を行い、学校の魅力を適切に伝えていくよう指導する。 ③学校HPに学校案内や広報資料を掲載し、学校行事や部活動などを随時更新して、分かりやすく新しい情報を提供する。 ④電話の(時間外)音声応答機能や欠席等連絡システムの導入により時間外勤務を削減する。 ⑤衛生委員会を活用して、時間外勤務及び休暇取得状況を把握して、職員に啓発する。	①衛生的な教育環境と安心安全な防災体制が構築できたか。(担当者による評価) ②学校の魅力を伝えることができ、参加者の期待・要望に答えられたか。(担当者による評価、参加者アンケート) ③学校HPで、学校案内を掲載し、学校行事や部活動などの状況を随時掲載(更新)して、常に新しい情報を提供することができたか。(担当者による評価) ④昨年度よりも時間外勤務の平均が減少したか。また、休暇の取得日数は増えたか。(担当者による評価)